



明正ゼミナールだより

— 12月号 —

2025年

昔から「こじきと政治家は3日やったらやめられない」という言葉がありますが、この言葉にはちょっと皮肉がこもっています。どちらも“人に頼る”立場になりやすく、一旦その味を覚えると離れがたい、という意味です。もちろん、すべての政治家がそうだというわけではありませんが、最近のニュースを見ていると「なるほどなあ」と思ってしまう場面が多いのも事実です。

例えば、伊東市や南城市の市長さん。自分に明らかな非があるにも関わらず、不信任決議を可決した議会を解散してしまうという前代未聞の行動に出ました。「議会を解散する権利は法律で認められている」と言えばそれまでですが、それを自分の保身のために使ってしまうのは、やはり“政治の信頼”という点で残念に思います。

政治で一番大切なのは「信頼」。それを失ったら、どんな立派なスローガンも意味を持ちませんよね。

そんな中で、今年亡くなられたウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカさんの生き方を思い出しました。ホセさんは「世界一貧しい大統領」と呼ばれていました。大統領になっても贅沢をせず、月給の約9割を寄附し、ぼろぼろのフォルクスワーゲン・ビートルに乗り、郊外の小さな農場に自分で野菜を育てて暮らしていました。ある時、記者に「なぜそんな質素な暮らしをするのか」と聞かれると、彼はこう答えました。

「貧しいとは、少ししか持っていないことではない。もっと、もっとと欲しがる心のことだ。」

この言葉には、政治家だけでなく、私たち一人ひとりへの大切なメッセージが込められていると感じます。大きな富を得ても心が貧しいのでは、悲しいものですよね。お金や地位よりも、人としての誠実さや思いやりの方がずっと大事。ホセさんのように、自分の信念を貫き、人の幸せを願って行動できる人が、本当のリーダーなのだと思います。

勉強も同じですね。点数や順位を争うことに目がいってしまいがちですが、もっと大切なのは「正直に努力すること」や「誰かの役に立ちたいと思う心」です。そんな気持ちを忘れずにいれば、学力だけでなく心が豊かに成長し、どんな時代になっても強く、温かく生きていけます。塾生たちには、そんな生き方をしたいと、心から願っています。

連絡事項

冬休み期間の予定は、同封したスケジュールをご覧ください。

本年は大変お世話になりました。

来年も、豊かな心を育て、その上に確かな学力をつけてもらえるよう塾生たちと時間を過ごしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

